

[概要]

文化についての理解を深める観光「文化観光」という言葉が生まれるなど、文化を観光に結びつけ地域の振興や活性化に役立てようという動きが活発となっている。地域の文化財をストーリーとして面的に活用しようという「日本遺産」制度は、その先駆的存在である。文化庁は、日本遺産制度はストーリーの国内外への発信だけでなく、住民のアイデンティティの再確認にも活用されるとしている。しかし、今回例に取り上げる上田市日本遺産ストーリーは、信憑性に欠ける言葉の使用などで、一部住民から懐疑的な目を向けられている。そして、観光という行為自体が何らかの加工を伴うため、ホスト側にとっては「まがいもの」である可能性があり、そのような観光によって生み出された「観光文化」は地域に元々存在していた住民にとっての自文化とは異なる。本稿では日本遺産制度は訪日外国人旅行者に向けた文化の加工を勧めるものであること、そして上田市日本遺産においてなぜ信憑性に欠ける言葉を使用したのかを明らかにし、地域の文化と「観光文化」が乖離した別のものであると示した。日本遺産の問題点は、信憑性に欠ける言葉を公的なストーリーとして認定してしまった点、地域の文化とは異なる「観光文化」と地域の文化の混同を進め、地域住民の文化やアイデンティティを危機にさらす点であると言える。そして後者は文化を観光に結びつける「文化観光」全体の問題点である。

キーワード：日本遺産，文化観光